

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	平成24年11月9日
【四半期会計期間】	第49期第2四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	株式会社ナガワ
【英訳名】	NAGAWA Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高橋 修
【本店の所在の場所】	北海道伊達市長和町467番地2 （同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記で行って おります。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目10番地17号
【電話番号】	048(648)6111(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役経理部長 高橋 学
【縦覧に供する場所】	株式会社ナガワ （埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目10番地17号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第48期 第2四半期連結 累計期間	第49期 第2四半期連結 累計期間	第48期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 4月1日 至平成24年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日
売上高(百万円)	12,273	9,951	24,839
経常利益(百万円)	1,861	1,299	4,266
四半期(当期)純利益(百万円)	1,071	675	2,207
四半期包括利益又は 包括利益(百万円)	1,058	677	2,208
純資産額(百万円)	28,062	28,735	29,105
総資産額(百万円)	33,633	33,679	36,550
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	70.51	45.36	145.43
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	83.4	85.3	79.6
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	2,128	842	4,720
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	803	110	914
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	339	977	447
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	5,587	6,324	7,960

回次	第48期 第2四半期連結 会計期間	第49期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 7月1日 至平成24年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	38.32	32.56

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興需要等を背景に、景気持ち直しの動きが見られたものの、欧州債務危機や長引く円高を背景にした金融市場の動揺や、米国、中国景気の減速など世界経済の変調により、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

ユニットハウス及び建設機械レンタル業界におきましては、民間工事及び設備投資においては、一部に先送りする動きがあるものの、緩やかな回復がみられました。また、被災地域においては国や地方の公共事業が震災復興を中心に増加した一方、他の地域においては低調に推移いたしました。

このような情勢のなか、当社グループは、プレハブ建築・システム建築の技術ノウハウを活用し大型倉庫等の受注を拡大し、また、同業他社が震災地域に一極集中するなか、全国的にバランスのとれたレンタル資産投入と継続的な営業活動によりレンタル稼働が想定を超えてほぼ全域で好調に推移いたしました。また、被災地域においては、東日本大震災の復興工事向けの仮設現場事務所を優先的に供給するとともに、応急仮設住宅の営繕等、震災復興と被災者の生活再建に尽力してまいりましたが、昨年受注した応急仮設住宅の工事売上高を埋めるまでには至りませんでした。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は99億5千1百万円（前年同期比18.9%減）、営業利益は12億4千8百万円（前年同期比31.1%減）、経常利益は12億9千9百万円（前年同期比30.2%減）、四半期純利益は6億7千5百万円（前年同期比37.0%減）となりました。

セグメント別の概要は次のとおりであります。

（ユニットハウス事業）

ユニットハウス事業におきましては、一般建設市場の開拓については、従来のユニットハウス建築に加え、昨年度より本格的に取り組んでいるプレハブ建築・システム建築に注力いたしました。一方で、海外戦略の一環として、平成24年6月にインドネシアにおけるプレハブ・ユニットハウスの生産・販売会社（現地法人）「PT.NAGAWA INDONESIA INTERNATIONAL」を設立いたしました。

また、同業他社が震災地域に一極集中するなか、当社は、全国的にバランスのとれたレンタル資産投入と備品や付帯工事をセットにしたより利便性の高いレンタルサービスを提案した結果、レンタル稼働がほぼ全域で前年を上回りました。また、被災地域においては、復興工事向け仮設現場事務所を優先的に供給するほか、応急仮設住宅の営繕等、震災復興と被災者の生活再建に尽力してまいりました。

以上の結果、レンタルにつきましては、受注増加による稼働棟数の増加や単価の持ち直しにより、全国的に堅調に推移いたしました。販売につきましては、昨年度より本格的に取り組んでいる大型倉庫等プレハブ建築・システム建築の受注が増加し、売上高に貢献いたしました。しかしながら、レンタル稼働棟数の好調に伴い、中古販売用ハウスの確保が難しくなり、中古販売が大幅に減少したほか、前期計上しました応急仮設住宅の工事売上高がなくなったため売上高は前年を下回りました。

この結果、当事業のセグメント売上高は95億9百万円（前年同期比18.4%減）となりました。また、営業利益は、全社的なコストダウンと効率化の継続実施を行ったものの売上高の減少に加え、粗利益率の高い中古販売の減少により、14億7千万円（前年同期比23.8%減）となりました。

（建設機械レンタル事業）

建設機械レンタル事業におきましては、営業エリアである北海道南部建設市場の公共工事請負金額が前年を下回っていくなか、地域に密着した営業活動の強化と貸与資産管理の緻密化による資産効率の向上と固定費の圧縮に努めてまいりました。

この結果、公共工事請負金額が前年に比べ減少傾向に推移した影響により、当事業のセグメント売上高は4億4千2百万円（前年同期比28.5%減）、また、営業損失はレンタル資産の購入平準化に伴う減価償却費の増加が加わり、8千6百万円（前年同期の営業損失は1千3百万円）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末より16億3千5百万円減少し、63億2千4百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は8億4千2百万円（前年同期は21億2千8百万円の獲得）となりました。主な増加要因は減価償却費が15億6千万円、税金等調整前四半期純利益が12億4千3百万円、売上債権の減少額が7億4千7百万円等であり、主な減少要因は法人税等の支払額が17億9千3百万円、貸与資産の取得による支出が11億2千8百万円、仕入債務の減少額が8億1千6百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は1億1千万円（前年同期は8億3百万円の使用）となりました。主な増加要因は、信託受益権の減少額が1億4千万円、定期預金の払戻による収入が1億円等であり、主な減少要因は社用資産の取得による支出が1億7百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は9億7千7百万円（前年同期比188.1%増）となりました。これは自己株式の増加額が6億1百万円、配当金の支払額が3億7千6百万円によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ23億7千万円減少し、149億9千3百万円となりました。その主な要因は、商品及び製品が3億5千1百万円増加した一方、現金及び預金が17億3千5百万円、受取手形及び売掛金が7億4千7百万円、信託受益権が1億4千万円それぞれ減少したこと等によるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ4億9千9百万円減少し、186億8千6百万円となりました。その主な要因は、貸与資産が3億8千6百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ28億7千万円減少し、336億7千9百万円となりました。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ24億7千4百万円減少し、47億円となりました。その主な要因は、未払法人税等が13億3千4百万円、買掛金が6億4千3百万円、その他の流動負債が2億9千5百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ2千6百万円減少し、2億4千3百万円となりました。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ25億円減少し、49億4千4百万円となりました。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ3億6千9百万円減少し、287億3千5百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金が2億2千9百万円増加した一方、自己株式が6億1百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は85.3%となりました。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	16,357,214	16,357,214	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	16,357,214	16,357,214	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	16,357,214	-	2,855	-	4,586

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
THE SFP VALUE REALIZATION MASTER FUND LIMITED (常任代理人 シティバンク銀行株 式会社)	東京都品川区東品川 2 - 3 - 14	2,176	13.30
高橋 修	埼玉県さいたま市大宮区	2,006	12.26
高橋 学	埼玉県川口市	1,000	6.11
有限会社エヌ・テー商会	埼玉県さいたま市見沼区東大宮 7 - 27 - 3	890	5.44
有限会社ダイユウ商会	埼玉県さいたま市西区大字土屋451 - 1	751	4.59
菅井 賢志	埼玉県さいたま市大宮区	741	4.53
高橋 和雄	埼玉県久喜市	718	4.38
株式会社北洋銀行	北海道札幌市中央区大通西 3 - 7	704	4.30
モルガンスタンレーアンドカンパ ニーエルエルシー (常任代理人 モルガン・スタン レーM U F G証券株式会社)	東京都渋谷区恵比寿 4 - 20 - 3 恵比寿ガーデンプレイスタワー	610	3.73
株式会社三菱東京U F J 銀行	東京都千代田区丸の内 2 - 7 - 1	610	3.72
計	-	10,207	62.40

(注) 上記のほか、自己株式が1,716千株あります。

(7) 【議決権の状況】
【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,716,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,627,400	146,274	-
単元未満株式	普通株式 12,914	-	-
発行済株式総数	16,357,214	-	-
総株主の議決権	-	146,274	-

(注)「完全議決権株式(自己株式等)」は、全て当社保有の自己株式であります。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ナガワ	北海道伊達市 長和町467番地2	1,716,900	-	1,716,900	10.49
計	-	1,716,900	-	1,716,900	10.49

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,060	6,324
受取手形及び売掛金	6,583	5,835
商品及び製品	1,051	1,403
仕掛品	34	58
原材料及び貯蔵品	250	272
繰延税金資産	217	123
信託受益権	835	695
関係会社短期貸付金	100	25
その他	242	268
貸倒引当金	11	12
流動資産合計	17,364	14,993
固定資産		
有形固定資産		
貸与資産(純額)	9,946	9,559
建物及び構築物(純額)	1,532	1,484
土地	6,600	6,586
建設仮勘定	29	28
その他(純額)	107	118
有形固定資産合計	18,215	17,777
無形固定資産	100	116
投資その他の資産		
長期預金	100	100
投資有価証券	258	182
敷金及び保証金	361	364
繰延税金資産	141	138
その他	24	19
貸倒引当金	16	11
投資その他の資産合計	869	792
固定資産合計	19,186	18,686
資産合計	36,550	33,679

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,890	1,247
ファクタリング未払金	1,718	1,596
未払法人税等	1,820	486
賞与引当金	219	190
役員賞与引当金	80	31
資産除去債務	2	1
その他	1,443	1,148
流動負債合計	7,175	4,700
固定負債		
退職給付引当金	17	17
長期未払金	70	52
負ののれん	37	26
資産除去債務	67	67
その他	77	79
固定負債合計	269	243
負債合計	7,445	4,944
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,855	2,855
資本剰余金	4,586	4,586
利益剰余金	22,498	22,727
自己株式	841	1,443
株主資本合計	29,098	28,726
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6	10
為替換算調整勘定	-	2
その他の包括利益累計額合計	6	8
純資産合計	29,105	28,735
負債純資産合計	36,550	33,679

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	12,273	9,951
売上原価	7,399	5,643
売上総利益	4,873	4,308
販売費及び一般管理費	3,062	3,059
営業利益	1,810	1,248
営業外収益		
受取利息	1	2
受取配当金	0	1
受取割引料	1	7
受取賃貸料	24	27
譲受関連収益	7	4
負ののれん償却額	10	10
雑収入	4	5
営業外収益合計	51	60
営業外費用		
為替差損	0	8
雑損失	0	0
営業外費用合計	0	9
経常利益	1,861	1,299
特別利益		
固定資産売却益	20	2
特別利益合計	20	2
特別損失		
固定資産処分損	2	33
投資有価証券評価損	-	23
特別損失合計	2	57
税金等調整前四半期純利益	1,879	1,243
法人税、住民税及び事業税	828	472
法人税等調整額	20	95
法人税等合計	808	567
少数株主損益調整前四半期純利益	1,071	675
四半期純利益	1,071	675

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,071	675
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13	4
為替換算調整勘定	-	2
その他の包括利益合計	13	2
四半期包括利益	1,058	677
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,058	677
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,879	1,243
減価償却費	1,517	1,560
貸与資産の売却原価	162	81
貸倒引当金の増減額(は減少)	10	3
役員賞与引当金の増減額(は減少)	12	48
長期未払金の増減額(は減少)	-	17
受取利息及び受取配当金	2	4
為替差損益(は益)	0	8
投資有価証券評価損益(は益)	-	23
固定資産処分損益(は益)	17	31
貸与資産の取得による支出	1,005	1,128
売上債権の増減額(は増加)	474	747
たな卸資産の増減額(は増加)	149	392
仕入債務の増減額(は減少)	576	816
負ののれん償却額	10	10
その他	715	327
小計	2,335	946
保険金の受取額	40	-
利息及び配当金の受取額	2	4
法人税等の支払額	250	1,793
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,128	842
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	100	100
社用資産の取得による支出	180	107
社用資産の売却による収入	150	32
投資有価証券の取得による支出	2	-
関係会社貸付けによる支出	-	25
信託受益権の純増減額(は増加)	828	140
子会社株式の取得による支出	50	23
その他	6	6
投資活動によるキャッシュ・フロー	803	110
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の純増減額(は増加)	35	601
配当金の支払額	304	376
財務活動によるキャッシュ・フロー	339	977
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	1
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	985	1,710
現金及び現金同等物の期首残高	4,602	7,960
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	-	75
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,587	6,324

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、非連結子会社でありましたNAGAWA DO BRASIL INDÚSTRIA DE CONSTRUÇÕES MODULARES LTDA.の重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成に当たり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
受取手形	245百万円	199百万円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
ハウス管理費	354百万円	350百万円
給料及び手当	775	787
退職給付費用	45	37
地代家賃	473	466
貸倒引当金繰入額	11	2
賞与引当金繰入額	190	173
役員賞与引当金繰入額	17	30

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	5,687百万円	6,324百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	100	-
現金及び現金同等物	5,587	6,324

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月21日 定時株主総会	普通株式	304	20	平成23年3月31日	平成23年6月22日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月19日 定時株主総会	普通株式	377	25	平成24年3月31日	平成24年6月20日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ユニット ハウス事業	建設機械レ ンタル事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	11,654	618	12,273
セグメント間の内部売上高又は振替高	2	0	2
計	11,656	619	12,275
セグメント利益又は損失()	1,930	13	1,916

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,916
セグメント間取引消去	0
全社費用(注)	105
四半期連結損益計算書の営業利益	1,810

(注)全社費用は、主に親会社の本社総務部、経理部及び企画室に係る経費であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ユニット ハウス事業	建設機械レ ンタル事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	9,509	442	9,951
セグメント間の内部売上高又は振替高	1	0	1
計	9,511	442	9,953
セグメント利益又は損失()	1,470	86	1,384

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,384
セグメント間取引消去	0
全社費用(注)	136
四半期連結損益計算書の営業利益	1,248

(注)全社費用は、主に親会社の本社総務部、経理部及び企画室に係る経費であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	70円51銭	45円36銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,071	675
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,071	675
普通株式の期中平均株式数(株)	15,201,119	14,896,524

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月9日

株式会社ナガワ
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 青木 俊人 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 藤原 明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ナガワの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ナガワ及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。